



伝・清水城主の墓

城址東100mの山中に祀られている。
 「足助八幡縁起」建武元年8月16日(1334)流鏑馬の射手5人の中に武節郷代官菜倉左近藏人・菜倉兵庫助太郎本郷分の名が読み取れる。



黒石砦

城址の北西側に武節へ通じる街道が残っている。その峠は馬洞と呼ばれているが、昔は番洞といい峠の南側にある小高い山は、黒石砦が築かれていた場所である。この砦は武節方面と名倉方面を監視する中継の砦として築かれていた。

位置図



交通のご案内



設楽の山城



丸に片喰(かたばみ)紋

(名倉姓発祥の城)



設楽町観光協会

〒441-2302 愛知県北設楽郡設楽町清崎字中田 17-7
 ※2021年5月頃移転予定
 〒441-2301 愛知県北設楽郡設楽町田口字辻前 14
 TEL. 0536-62-1000 FAX. 0536-62-1332
<https://www.kankoshitara.jp>



清水城址

縄張り図



城
歴

所在地

北設楽郡設楽町西納庫字城の腰一〇番地 他

名倉川右岸、清水地区のほぼ中央の丘陵地、標高六六七メートルに築かれ、北側を堀切と堅堀で断ち切った独立小山になる。

東側は町道と水田の湿地帯で比高約二十五メートル。西側は水路と水田の湿地帯、比高約二十七メートル。

南側が広い平地とゆるい斜面の地形で三方を急斜面に囲まれた要害に築かれている。

縄張りは、本曲輪約四〇〇平方メートルを中心に東に切岸と腰曲輪、その下に帯曲輪が築かれ、南の虎口と二の曲輪約一〇〇平方メートル、その下が大手口となる。

城主は、南北朝時代足助氏の代官であった菜倉左近藏人が知られ、建武元年（一三三四）頃在任し、近隣二八ヶ村を支配したといわれる。

二代の右衛門佐伊武は後継ぎがなく、新田氏から孫六兼氏を迎えて一時新田を称したこともある。



本曲輪跡



清水城入口